

市原市(千葉県):あおばす

自治体経費負担・地域住民主体のコミュニティバス

人口	280,255 人	モード	コミュニティバス
面積	368.20 km ²	法令	道路運送法 第4条
人口密度	761.15 人/km ²	運営主体	青葉台コミュニティバス運営協議会



■ 取組の背景

地域と交通の状況

- 市原市の青葉台地区(青葉台6丁目、7丁目及びダイアパレス千葉青葉台の3地区)は、JR内房線姉崎駅から1.5~2kmと比較的駅から近い距離にある住宅地であるが、団地内に起伏があることや道路形態等から既存の路線バス停が遠く、駅や病院へのアクセスが不便な交通空白・不便地域となっていた。
- 市民からは、平成8年ごろよりバス会社などにバスの運行を要望してきたが、要望運行ルートの一部において安全面の確保が難しい箇所があり、運行には至らなかった。

【交通不便地域の存在】

活用メニュー(制度・協議会等)

- 市原市には、市民が主体となって運行するコミュニティバス等の支援を行うため、「市原市コミュニティバス等導入調査研究事業補助金」、「市原市コミュニティバス等運行支援事業補助金」が設けられている。
- 導入調査研究事業補助では、調査研究に関する10万円までの補助が支給される規定となっている。運行支援事業補助では、運行費の半額(ただし予算の範囲内)までの補助が、支給される規定となっている。
- 平成15年度に、市が「バス交通調査」を実施し、公共交通空白地域における住民主体のバス等の運行を検討することとなった。
- 平成16年度には、市の調査結果を受けて、市原市青葉台6丁目、7丁目、ダイアパレス千葉青葉台の3町会が共同で「青葉台地区に市民バスを走らせる研究会」を発足させ、市民バス実現に向けて、需要調査や運行ルート検討・運営組織の設立準備等の検討を行った。
- 平成17年度に、各町会の代表で「青葉台コミュニティバス運営協議会」を組織し、小湊鉄道に運行委託し、平成17年11月より、コミュニティバス「あおばす」の運行が始まった。

【自治体独自協議会】【市町村の補助(バス)】

■ 実現したサービス

サービス内容

- あおばすは、運賃は100円から210円の対距離制で、運行時間帯は6時から23時、運行本数は平日で1日に上り22便、下り20便(土曜日は上り15便、下り15便)となっている。また、朝夕の通勤時間帯は急行運転が行われている。
- 平成20年1月15日には、同市の南総西地区において、あおばすと同様の運営・運行形態である2路線目のコミュニティバス「コスモス南総」が試行運行開始された。運営主体は「南総西コミュニティバス運営委員会」であり、小湊鉄道に運行委託されている。平日に上下ルート各8便運行される。
- 車両は、ノンステップの超低床型バスが運行されている。

【ダイヤの工夫】【ノンステップバス】

■ 効果と負担

効果

【利用者数の増加】【生活移動手段の確保】【高齢者外出機会増】

- 平成 19 年度の「あおばす」1日の利用者数は、当初の計画 320 人に対して、実績は 347 人となった。平日の利用者は約 350 人で推移している。平成 19 年度より運行開始した土曜日は、1 日あたり 149 人の利用者であった。1 便あたりの利用者数は、7.86 人となっている。
- 地域の通勤、通学、買い物等に利用されており、地域の移動手段として利用されている。交通空白地域の解消、高齢者・障害者等交通弱者のモビリティ確保などの効果が得られている。

負担

【市町村負担】【地域負担】

- 平成 19 年度においては、運行委託費約 20 百万円に対して、運賃収入が約 9 百万円、回数券販売で約 3 百万円、広告収入その他を合わせて約 13 百万円の収入となっている。定期券の設定はない。運行費の半額をクリアしているため、約 7 百万円の不足分は市の補助金で全額まかなわれており、平成 19 年度現在では、運営協議会の費用負担は発生していない。

表. 収支の状況(平成 19 年度)

収 入	運 賃 収 入	9,395,729 円
	回 数 券 販 売 収 入	3,332,000 円
	定 期 券 販 売 収 入	0 円
	広 告 収 入	435,000 円
	そ の 他 の 収 入	2,683 円
	総 収 入	13,165,414 円
支 出	運 行 委 託 費	19,486,000 円
	運 営 経 費	645,145 円
	総 支 出	20,131,145 円
経 常 利 益		- 6,965,731 円

※市の補助額 6,965,000 円

■ プロセスと調整

協議会が主体となったフォローアップ

【プロセス:フォローアップ】

- 運行ルートやダイヤなどについては、運営協議会が実施しているインターネット調査等により利用者の声が反映されたものとなっている。地域が主体となり、市はアドバイスをを行う立場となっている。

■ 創意工夫・知見・教訓

住民の意識改革

【知見:合意形成の場の設定】【知見:住民参加・主体性発揮】

- 当初は市民からはバス会社などへの運行要望にとどまり、自らの熱意で運行を実現させようという意識は少なかった。しかし、現場担当者の熱心な働きかけにより、市原市の補助の仕組みを活用しつつ市民自らが主体となって「バスが必要」「バスを走らせたい」という強い思いが行動への原動力となって、バスを走らせる取り組みが実現した。
- 地域のことを一番熟知している市民が自ら、運行ルート、ダイヤ、車両の大きさや種類、経費の試算などの運行形態を検討した。

アンケート調査の活用

【教訓:専門知識の必要性】

- アンケート調査により「バスに乗る」と答えた数と、実際では差があり、本当の需要を把握することが難しい。特に、行政の行う調査と、市民が行う調査では、差が生じる。

■ 連絡先、参考 URL 等

連絡先：市原市役所企画部交通政策課 電話 0436-23-9762

参考 URL：あおばすホームページ <http://www.aobus.com/>

■ 資料編

回数券の種類および内容

種類	券片	枚数	券片額	割引率
1,000円	100円券	11枚	1,100円	9.1%
2,000円	100円券	14枚	2,250円	11.1%
	30円券	16枚		
	20円券	12枚		
	10円券	13枚		
3,000円	100円券	20枚	3,430円	12.5%
	30円券	28枚		
	20円券	23枚		
	10円券	13枚		
4,000円	100円券	24枚	4,570円	12.5%
	40円券	29枚		
	30円券	28枚		
	10円券	17枚		

図. あおばす回数券

出典：市原市資料